

## 第94回定例会 報告レポート

### 【東日本大震災対策／特別再編集版】

■2004年12月20日(月) 15:00~18:30

■INAX(株) 東京ビル8階 第三会議室(東京都中央区)

(本レポートの著作権は、メンテナンス研究会に帰属します。)

転記・引用等の際には、事務局にご一報下さい／連絡先は巻末に掲載)



### ■テーマ : 新潟中越大震災および水害とトイレについて

◇スピーカー : ①村上八千世氏(アクトウェア研究所)

②松枝邦雄氏(ニッソー樹脂)

③堤氏 および 横尾氏(INAXメンテナンス)

④矢部信司氏(ハマジェンヌ事務局)

および 坂本正志氏(ボーイスカウト鎌倉第八団カブ隊長)

◇進行 : 坂本菜子氏(メンテナンス研究会代表、坂本菜子コンフォート研究所)

平成16年(04年)10月23日に新潟・中越地震が起こりました。阪神淡路大震災(95年)がそうであったように、震災現場ではトイレ対策が急務となり、さまざまな対策がなされました。そこでこの回では被災直後から現在まで見られたトイレ問題やその対策を、現場に関わった4グループの方より状況報告をして頂きました。それをさまざまな角度から報告し合い、多角的に研究しつつ、今後の課題や当会でできることを整理したいと思います。(今回は特別に、当時会員向けに作成した報告レポートに少し手を加えて、再度公開します／2011年3月23日)

### スピーカー1. 村上八千世(アクトウェア研究所)より・・・

#### 「小千谷市内の避難所のトイレ利用状況」

私は、11月6日に当会の会員である和泉正一さん(和泉サービス)と小千谷市の避難所に行きました。仮設トイレは思った以上に充分にありました。トイレ対応はかなり早かったと思われます。県の仮設トイレ対策も10月24日時点で発表されていました。避難所では主に屋外の仮設トイレと屋内の既設トイレがありました。屋外の仮設トイレは和式がほとんどで、段差もあり、建物から遠いので高齢者には使いにくいものでした。また頻りにバキュームカーが汲み取りに来ていました。屋内用は高齢者や弱者が優先的に使用できるように張り紙などがありました。最初はプールの水を汲んでは流していたようですが、下

水管のトラブルなどが明らかになったため、その後非常時用排便収納袋（携帯用備蓄トイレ：詳細はスピーカー2に）が使用されてきました。ポータブルトイレは支給されていたようですが、それを実際に使用するプライベートな空間が確保できないのが問題のようでした。掃除は思った以上に行き届き、阪神淡路大震災の時よりボランティアや地域住民の対応が行き届いているようでした。

（あと、村上氏より当会の片桐栄一氏と新妻氏が撮影した長岡市や小千谷市のトイレ状況写真を回覧されました）



仮設トイレは夜も明るく安全に使用できた

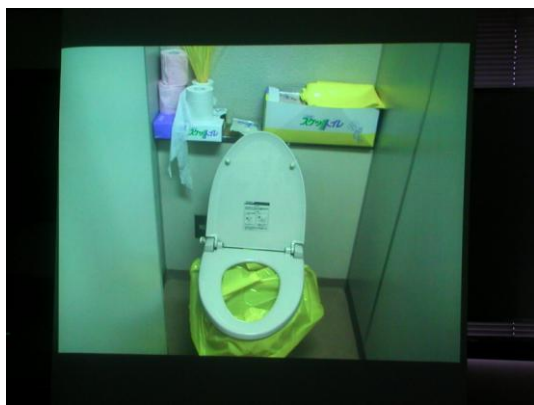
## スピーカー2. 松枝 邦雄氏（ニッソー樹脂／「スケットイレ」製造） 「被災直後から非常用トイレが避難所で使われるまで、及び利用状況について」

私は非常時用排便収納袋の商品メーカーの者です。現場では別の方が配布を担当していました。現在は様々な形状の非常時トイレが誕生していますが、このトイレも新潟の被災地でお役に立てたようですので、参考にさせていただければと思います、利用状況と使い方についてご紹介させていただきます。

これは便器にかぶせるビニール袋と、糞尿を固める凝固粉と、それを捨てるゴミ袋と紐がセットになっており、それぞれを1回ごとに使います。用を足す前に袋をセットし、排泄が終わったら粉を入れ、紐で閉じ捨てます。可燃ゴミとして焼却が可能です。現場ではS100という100回分がパッケージされたものをたくさん配布しました。買い上げされたのが1400ケースで、新潟市が購入された1000ケースが救援物資として、運ばれたようです。また長岡市



商品使用の状況を実演していただいた



便器にビニールをかけて対応

より要請があって、400 ケースを出しました。他市からも 20 万回分が届けられたようです。今後は山間部の下水道が当分復旧しない地域で活用され続けると予想されます。

### スピーカー3. 堤 氏 & 横尾氏 (共に INAX メンテナンス) より

#### 「新潟での設備メーカーの対応について」

当社より、3つの報告をします。

1つ目は現地の社員の様子ですが、10名のスタッフの内3名が被災しました。そのうち1名は長岡市濁沢地区で被災し、全壊全焼してしまいました。そのお隣の奥さんは1回目の揺れの後自宅に戻り、2回目揺れの時に家に押しつぶされて亡くなってしまいました。震災直後は大変でしたが、現在は業務に復帰しています。

2つ目ですが、柏崎仮設住宅でのトイレ設置に携わった事です。トイレ（便器、手すり、タオル掛け、ペーパーホルダー）や洗濯機パンの器具等の設置を、設備工事のできる人が6名で人海戦術方式、突貫工事で、40件行いました。

3つ目は新潟サービスセンター（長岡地区の管理をしています。）の現在の状況です。住



参加者は20名。会員以外の参加者が目立った

民から修理の要請が増え、普段の2割増となりました。普段の要求とは違い、トイレのタンクだけ割れたので交換して欲しいなどの要望が多いです。しかし型式が古く（約20年前の物）、品番が分からないので、写真などを送ってもらい現在の品番と照らし合わせて器具を調達するなど、手間がかかりました。

今後ライフラインの復旧に伴い、いろいろな事柄が出てくるかと思われます。アフターメンテナンスは、被害者の支援を勘案しながら対応させていただいております。

### スピーカー4. 矢部信司氏 (ハマジェンヌ事務局) &

#### 坂本正志氏 (ボーイスカウト鎌倉第八団カブ隊長) より

#### 「避難所でのボランティア体験から」

ボーイスカウトのキャンプでは、「食う・寝る・垂れる（排泄する）」を教えるのが基本です。今回の震災では、関東より150~200名のボランティアが自主的に行ったと思われます。現地では社会福祉協議会がボランティア受入れ体制を確立し、受入れから作業指示までの流れが円滑に進んでいました。

トイレはきれいで悪臭も少なく、数も十分と見受けられ、まるで仮設トイレの展示会のようでした（笑）。ただし、説明書きがあっても高齢者は読まず、段差があり、ペダルを踏



マンホールでは管がずれる現象が起こった

んで水を流すタイプの仮設トイレは、使いにくかったようです。また人が頻繁に通る通路沿いに多く設置されていましたが、その位置が分かりやすい反面、どうも覗かれているような気がして落ち着かず、精神的に抵抗を感じました。それに現代の子供達は和式のポットトイレを使用した経験が少ないため、抵抗があったようです。あと洋式トイレや車椅子対応の仮設トイレが少ないことが今後の課題と思われます。それ

から衛生意識も高く、手洗いやうがいを促す注意書きなども多く見られました。マンホールは深さ3mと6mの2種があるようですが、3mの方は地面から浮き出してしまっていました（これは阪神淡路大震災では無かった現象）。

トイレ以外で学んだ事ですが、救援物資は送らず現金寄付の支援を（個人から送られた、使用に耐えぬ膨大な量の品も。仕分けに多大な工数を要する）・救援物資はあて先を限定せずに誰もが使えるようにすべき…など、いろんなことが分かりました。

そして最も重視すべきは地域性の違いです。例えば阪神の時には体育館などの避難スペースで、プライバシーを守る仕切り用ダンボールやテントが好評でしたが、新潟の場合は隣近所の方との付き合いが濃厚なためか、それがあると逆に知り合いの姿が見えずに不安になるので不要と知りました。都市型と地方型などと大雑把に区分せず、その地域ごとにきめ細かく配慮しなければならない体制が求められるという事でしょうか。それ以外にも被災した人数や自然環境など、阪神の時とは違う点を踏まえて、今後の展開を考えるべきと思います。



体験に基づく言葉は、力強く重い。

### 報告後・・・会場全員での討議で…

- ・ インターネットの普及が大きかった。これをもっと利用すべきだ。
- ・ 非常時用のトイレをもっと普段から使う訓練をしてはどうか？
- ・ 関東に震災が来たことを想定して、訓練しておくべき
- ・ もし震災が起こった時にトイレの位置をシュミレーションしておくべき

（レポート作成者：白倉正子）

日本トイレ協会メンテナンス研究会では常時、会員を募集しております。  
会員になられると、定例会のお知らせや、報告レポートの送付等を受けられます。

□■日本トイレ協会メンテナンス研究会 入会概要■□

会員種別…法人会員〔年間費 30000 円〕

個人会員〔年間費 10000 円〕

○入会金は無し。

○後期以降（11月1日～3月31日）は半額。

希望者には所定の書類をお送りします。事務局にご一報ください。

◆事務局：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢 685 (株)アメニティ内 (担当：内田)

TEL 045-372-1156 / FAX 371-7717

Mail : [jimu@toiletmaintenance.org](mailto:jimu@toiletmaintenance.org) (担当：白倉)

ホームページ : <http://www.toiletmaintenance.org>